

巻頭言

関西支所の地域研究 —過去・現在・将来—

関西支所長 河室 公康



関西支所が設置された1947年から現在まで、過去57年間に取り組んだ主な研究課題のキーワードをおおまかに時系列に並べてみました。1950年代のキーワードは「せき悪林」と「ハゲ山」でした。1960年代に入ると「せき悪林」に「育苗、育種」、「林地肥培」及び「短伐期育成林」が加わりました。1970年代は「マツ材線虫病防除」など「アカマツ林」の枯損防止研究が全盛でした。1980年代は「近畿・山陽のアカマツ林跡地対策技術」、「ヒノキ林育成技術」とともに「都市近郊林」と「風致林」のキーワードが現れます。1990年代になると「風致林・都市近郊林」に「ランドスケープ」が加わり、2000年代になって「里山林」が新たに加わりました。これらのキーワードはそれぞれの時代に関西地域の森林・林業をめぐる最重要の政策課題でもあったことはご存じの通りです。

2001年の独立行政法人化以降の関西支所のメインテーマは「里山林」です。この「里山林」に対する社会の関心が現在どの程度大きいのか、ちなみに、「里山林」というキーワードをインターネットで検索してみたら、あるウェブサイトでは1920件がヒットしました。1990年代に地球環境問題で注目された「熱帯林」は現在でも約9000件ヒットします。それ以前の研究課題の主要なキーワードである「アカマツ林」、「せき悪林」は各々2300件、および8件と少なくなります。インターネットのキーワード検索でヒット数の多いものは一般的に社会的関心の大きい案件と考えられますし、とくに「里山林」のように、2、3年前に比べて急速にヒット数が増大しているキーワードは将来さらに社会の関心が増大するものと思われます。その内容を一読すると、森林管理局署、府県、市町村などの公的機関のサイトでの里山林再生、整備に関わる紹介ページが増大しつつあるとともに、個人、NPO、民間会社等のホームページによる里山林関連情報の発信数の増大が目立ちます。

関西支所における「里山林」研究プログラムがスタートして、4年になります。当初手探り状態の「里山林」研究でしたが、この年度末には、研究の中間成果として「里山林の生物リストと生物間相互作用」や「里山林管理に関する日英比の比較研究」などを普及版小冊子にとりまとめ、広く関係機関に配布する予定です。研究論文も順次公表してまいります。さらに、向こう数年内には、地域研究「里山林」の成果がまとまり、里山林をめぐる諸問題の解決に貢献できるものと考えています。キーワード「里山林」が、後年、支所の研究史の中で地域研究を確実に発展させた「前進的な研究プログラム」であったと記録される確信を持って進めていきたいと考えています。最後に、本紙愛読者各位には支所地域研究「里山林」に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

[[巻頭言](#)] [[解説シリーズ](#)] [[What's New](#)] [[報告](#)] [[おしらせ](#)]

[[所報トップページへ](#)]